

令和4年度

教職課程

自己点検評価報告書

令和4年5月

沖縄女子短期大学

目次

I	教職課程の現状及び特色	1
II	基準領域ごとの自己点検評価	2
	基準領域1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み	2
	基準領域2 学生の確保・育成・キャリア支援	3
	基準領域3 適切な教職課程カリキュラム	3
III	今後の教職課程教育・運営の課題	5
	現状基礎データ票	

I 教職課程の現状及び特色

1 現状

(1)大学名：沖縄女子短期大学

(2)所在地：沖縄県島尻郡与那原町東浜1

(3)学生数及び教員数

(令和4年5月1日現在)

学生数： 評価対象学部：児童教育学科384名／大学全体516名

教員数： 教職課程科目（教職・教科とも）担当15名／大学全体21名

（うち、教育委員会との交流人事0名）

2 特色

創立者嘉数津子は幼児期から児童までの沖縄の子どもたちに携わる女性の役割の重要性を痛感し、家政科、英語商業科に続き昭和43年、児童教育科一部・二部を設置し、小学校・幼稚園教諭を開始した。また、平成16年度には、教職への就労を望む男子学生にも門戸を開いた。以降途絶えることなく毎年10%程度の男子学生入学している。令和3年現在、学科内には初等教育コース、心理教育コース、福祉教育コースの3コースを設置し、小学校・幼稚園教諭の養成に加え、コースに応じて、心理や福祉に関する諸資格を取得できる。さらに平成21年に岐阜女子大学と姉妹校締結したことにより、短大卒業後に3年次編入し、小学校・幼稚園教諭一種および専修免許状への上申を可能としたほか、中学校教諭二種免許状(英語)の取得も可能となり、教職に関する選択の幅を拡げ、社会のニーズに対応している。また多くの者が幼稚園教諭免許と保育士資格を併持するため、認定こども園への保育教諭として就労する道が開かれている。

II 基準領域ごとの自己点検・評価

基準領域1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み

- (1) 基準項目1-1 教職課程教育に対する目的・目標を共有
- (2) 基準項目1-2 教職課程に関する組織的工夫

[状況説明]

学生の育成像について、沖縄県の沖縄県公立学校教員等育成指標を踏まえ、児童教育学科の教育研究上の目的を設定し、教職課程に沿った卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を立てている。その内容については、学生便覧、大学案内、学生募集要項、HP等で示すとともに、教職員間で共有している。

[長所・特色]

教職課程に関する沖縄県公立学校教員育成協議会(小委員会および協議会(年2回))は、教育実践研究支援センターでとりまとめ、児童教育学科の小学校実習関連の教員と幼稚園実習関連の教員を派遣し、教育実習や教員の養成・採用・研修に関する諸問題に教育委員会および学校関係者と協議し、連携・協力を図っている。

国の動向や県内の教職課程の新たな情報と課題を共有している。

実習終了後には、実習種別（幼・小）ごとに、日誌や指導案等がよく記述されている学生を抽出し、冊子にとりまとめた「実習を終えて」を発刊し、次年度の学生の参考書として配布し実習指導に活かすほか、教材の記録として蓄積している。

また、令和3年度は学習成果の可視化を図るため、従来実施してきた履修カルテ内で実施していた「必要な資質能力」の振り返りを「卒業までに身につける力」の振り返りとしてディプロマ・ポリシーとの繋がりを明確にしながら、指標を策定し実施した。

基準領域 2 学生の確保・育成・キャリア支援

- (1) 基準項目 2-1 教職を担うべき適切な人材（学生）の確保
- (2) 基準項目 2-2 教職へのキャリア支援

〔状況説明〕

(1) 教職を担うべき適切な人材（学生）の確保のために、入学者受け入れの方針をたて、それに沿った入学選抜を行っている。

(2) 教職へのキャリア支援としては、保育・教職実践演習等の科目で、教職現場で働く卒業生や園長先生から講話を聞く機会を設定している。県の教員採用試験については、県教育庁の担当者から直接説明を聞く機会を設けている。

〔長所・特色〕

保育・教職実践演習の中で、なりたい教師像やなりたい保育者像について学生に書いてもらうことで、教職への意欲を高めている。教学課と学科で連携をして、同窓会関係者の勤務する園にいる卒業生より学ぶ機会と就職相談を兼ねた会を実施している。学内のエントランスに園等が来学し、就職案内をするコーナーを作り、学生が就職先の様子を直接聞く機会を設けている。公務員試験対策講座を実施するとともに、教員採用試験の対策講座を実施している。

基準領域 3 適切な教職課程カリキュラム

- (1) 基準項目 3-1 教職課程カリキュラムの編成・実施
- (2) 基準項目 3-2 実践的指導力養成と地域との連携

〔状況説明〕

(1) 実習へ行くまでに単位を取得すべき要件科目を設定し、学年があがるにつれて、より教職について理解が深まるようにカリキュラムを設定している。

また、それらを可視化するために、学生便覧には履修モデルを提示し、学生は履修カルテで、自身の取得した教職科目について把握と振り返りができるように体制を整えた。また、令和2年度においてカリキュラムツリーの策定に取り組み、取得する科目の順序性や関連性を学生にわかるように系統立てし、令和4年度から学生へ配布した。

(2) 実践的指導力を養成するために、インターンシップ科目を設定し、小学校員を目指す初等教育コースにおいては、2年間連続して同一校へ配置することで、理論と実践の間を往還しながら深い学びができるようにしている。幼稚園教員を目指す心理教育コース・福祉教育コースでは、各自インターンシップの受け入れや期間（25時間）を予約し実施するよう指導している。

ICT活用力などこれからの教育現場に必要な力を育成するため、近年の小学校・幼稚園現場で実務経験のある教員を実務家教員として採用し、令和4年度以降に指導法の科目やICT事項科目においてICT活用力を育成できることとした。

[長所・特色]

実践的指導力養成と地域連携のために、ボランティア活動として、例年本学の所在する町の放課後学習支援事業に学生を派遣し（有償ボランティア）、宿題や家庭学習、の支援をしてきたが、令和2年度に引き続きコロナウィルス感染症の拡大により実施できなかった。また、県内大学で構成される大学コンソーシアム沖縄の事業である「子どもの居場所ボランティア」に学生が登録し、事前研修を受けて派遣され、児童の学習支援や相談相手になるといった活動を通じて、児童理解や実践力の向上につなげている。

<基準領域の記載において根拠となる資料等>

- ・資料1：(例) 学生便覧、2021年度、 pp.47—56
- ・資料2：(例) 履修カルテ、 2021年度

- ・資料3：沖縄女子短期大学 2022 年度大学案内
- ・資料4：実習を終えて
- ・資料5：沖縄女子短期大学 50 周年記念誌
- ・資料6：沖縄県公立学校教員候補者選考試験制度説明会（開催要領）
- ・資料7：（一社）大学コンソーシアム沖縄 子どもの居場所学生ボランティアセンター活動について

Ⅲ. 今後の教職課程教育・運営の課題

- ・新しい学習様式を見据えた ICT を活用した授業のさらなる実施。FD 等を通して各指導法担当教員によって ICT 活用の役割分担を図る。
- ・キャリア支援については、教学課と学科及び教育実践研究支援センターとでさらなる内容の連携が必要と考える。
- ・教育現場との連携をさらに深める。
- ・コアカリキュラムの実施状況確認
- ・アクティブ・ラーニングの導入状況を把握(シラバスに表記しているが)
- ・教職課程の自己点検・評価について評価項目を設定し、教職課程に関わる各教職員がティーチングポートフォリオを通じて自己点検・評価を実施できるようにする

現状基礎データ票

令和4年5月1日現在

設置者 学校法人 嘉数女子学園					
大学・学部名称 沖縄女子短期大学					
学科やコースの名称（必要な場合） 児童教育学科					
1 卒業者数、教員免許取得者数、教員採用者数等					
① 昨年度卒業者数					171
② ①のうち、就職者数 (企業、公務員等を含む)					108
③ ①のうち、教員免許取得者の実数 (複数免許取得者も1と数える)					162
④ ②のうち、教職に就いた者の数 (正規採用＋臨時的任用の合計数)					19
⑤ ④のうち、正規採用者数					9
⑥ ④のうち、臨時的任用者数					10
2 教員組織					
	教授	准教授	講師	助教	その他（ ）
教員数	6	3	3	3	0
相談員・支援員など専門職員数					0